

# 千波湖内に入って魚たちを調べました

## ～第1回千波湖環境学習会～

当協会では、身近な自然環境を守る大切さを学ぶ「千波湖環境学習会」を水戸市との協働事業として開催してきました。新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度は10回開催しましたが、今年度は8回とし、開催開始も例年の5月を8月からとしました。

今年度、第1回目の千波湖環境学習会は8月2日に開催しましたが、家族連れが多く、快晴で気温の高い状況でした。新型コロナウイルス感染拡大を防止するため外出自粛が続く中、エネルギーの有り余った多くの子どもたちが来てくれました。また、中学生を含めたボランティアの人たちも手伝ってくれました。



間隔をあけて説明を聞く子どもたち

子どもたちは、間隔をあけてデッキの上に座り、千波湖岸辺に生息する水生生物（魚類、エビ等の甲殻類など）の採取の仕方を教えてもらい、また、魚類等の捕獲にあたり特定外来生物が採れた場合の取り扱い方などの注意事項を教わりました。

例年、ボートに乗って仕掛けていた魚取り用の網を回収するのですが、今回は新型コロナウイルス感染拡大の防止を図るため、ボートに乗らず岸辺から網を回収することにしました。さらに例年、クイズ形式で魚の生態等の学習も行っていましたが、今回は熱中症等のリスクを下げるため、また、効率化を図るため説明等は最小限にとどめることとしました。子どもたちは千波湖に膝くらいまで水に浸かり魚類等を採取するのですが、できるだけソーシャルディスタンスを保ちながら採取するよう呼びかけました。子どもたちが沖側に行かないようスタッフを配置し、また、子どもたちが魚を捕れるようサポートしました。子どもたちは早く魚取りに行きたい様子で、魚取り用の手網と入れ物を急いで受け取って、ライフジャケットを身に着ける時間も惜しい様子でした。



間隔をあけて魚類等を採取する子どもたち

今回の学習会では、カゴ網に大きな鯉が掛かり、子どもたちは興味津々で見っていました。鯉は大きくない容器の中では弱ってしまうので、早めに逃がすこととし、逃がす時には大きな歓声が上がりました。また、今回はブルーギル、オオクチバスなどの特定外来生物は採取できず、在来生物のモツゴ、タモロコ、ヌマチチブ、ヨシノボリ等の魚類、テナガエビ等の甲殻類は例年どおり捕れ、千波湖は外来生物に負けず在来生物が生息できる自然環境が保たれていることを確認できました。

千波湖で採取された生物（平成29年度～令和2年度）

No.	種類	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度		
1	魚類	在来種	モツゴ	モツゴ	モツゴ		
2			タモロコ	タモロコ	タモロコ		
3			ヌマチチブ	ヌマチチブ	ヌマチチブ		
4			ヨシノボリ	ヨシノボリ	ヨシノボリ		
5				ナマズ	ウキゴリ		
6	外来種	コイ※	コイ※		コイ※		
7			カムルチー		アメリカナマズ		
8					ブルーギル		
9	甲殻類	在来種	テナガエビ	テナガエビ	テナガエビ		
10			スジエビ	スジエビ	スジエビ		
11					モクズガニ		
12	亀類	在来種				インガメ	
13			外来種				クサガメ
14							ミシシッピアカミミガミ
※諸説あり							

最後になりますが、気温が非常に高い中、生物採取に協力いただいた参加者の皆様、飲料水を提供していただいた、いばらく乳業株式会社様、お菓子を提供して下さった、東部燃焼株式会社様ありがとうございました。その他協力いただいた皆様方に厚くお礼申し上げます。

(注) 千波湖の西側（放流橋から西側）は、通常、生物類の採取や魚釣りが禁止されていますが、特別な許可により、本学習会では実際に千波湖に入って生物を採取することができます。

# 千波湖周辺の昆虫を調べました

～第2回千波湖環境学習会～

「千波湖周辺の昆虫を調べよう」をテーマに、今年度2回目の千波湖環境学習会を8月16日に開催しました。

今年は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、参加者を子ども50名に限定しての学習会となりました。親水デッキでの開式の後、ふれあい広場を経由して少年の森へ向かうコースで行いました。少年の森に上がる手前の水路では、トンボを観察しました。運よくオニヤンマが往復で飛んでいるところを見つけた子どもたちは、夢中で網を振っていましたが、今年は採集できませんでした。

その後、ふれあい広場で歓声を上げながらバッタやチョウを追いかけたり、息を殺して木に止まっているセミを採ろうとしたり、みんな頑張っていました。

最後に少年の森に移動しセミの抜け殻を集めました。

千波湖周辺ではアブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクホウシ、ニイニイゼミの5種類のセミが生息しています。子どもたちの中には、その5種類全部の抜け殻を集めた子もいました。

セミの抜け殻集めのときには、林の場所によって出てくるセミの種類の割合が違うのかどうかを調べると面白いことを説明し、羽化殻がついている場所と地面の距離を測ってみると、羽化するために長い距離を歩く種類とあまり歩かない種がいることを学びました。



ふれあい広場で虫の説明を受け、採る気満々の子どもたち



少年の森でセミの抜け殻調べをしました



たくさんのセミの抜け殻を集めました

蝶は、キタキチョウ、アカボシゴマダラ、ナガサキアゲハが見られました。

8月前半の猛暑からは開放されましたが、最高気温は30度を超えており、子どもたちは汗びっしょりになりながらも夢中で虫を追いかけていました。

最後は、少年の森の南側で飲み物とお菓子もらって解散しました。暑い中の学習会でしたが、楽しい思い出になったかと思います。

お菓子を提供してくださった東部燃焼株式会社様、暑い中ご協力いただいた皆様ありがとうございました。